

1

【主の御名を全地の上で】

C Dm G7 C
主の御名を全地の上で
C Dm G7 C /B Am
あがめよう ほめたたえよう

Dm G C /B Am
心込めて 歌おう
Dm G C
心込めて 歌おう

【主を待ち望む】

C F G7 Em A
主を待ち望む 者は 新たに
Dm G7 C
力を受けて のぼる

F G7 Em Am
走り疲れず 歩みて うまず
F Am G C
鷺のように のぼる

詩篇91篇1～2節

C F G Am
いと高き者のもとにある
C/E F Gsus4 G
隠れ場に住む人
C F G E/G# Am
全能者の陰にやどる 人は
C/E F Gsus4 G
主に言うであろう
F G/F E Am
「わが避け所、わが城、
F C/E Dm G C
わが信頼しまつるわが神」と

5 祈りのガイドライン

1. 賛美と感謝の祈り

2. 悔い改めと主を慕い求める祈り

3. 個人的な願いの祈り

4. とりなしの祈り

- ・コロナの終息のためにお祈りしましょう。
- ・愛知県の感染者が増えています。この夏の間、礼拝を守ることができますように。
- ・魂の救いと地域の伝道のため
- ・教会員の皆様がコロナから守られ、信仰生活が守られますように。マイナスがプラスになる!
- ・インターネット YouTube が用いられるように。
- ・家族・親族・友人知人・ご近所の方のために
- ・病いや困難と闘っている兄弟姉妹のため



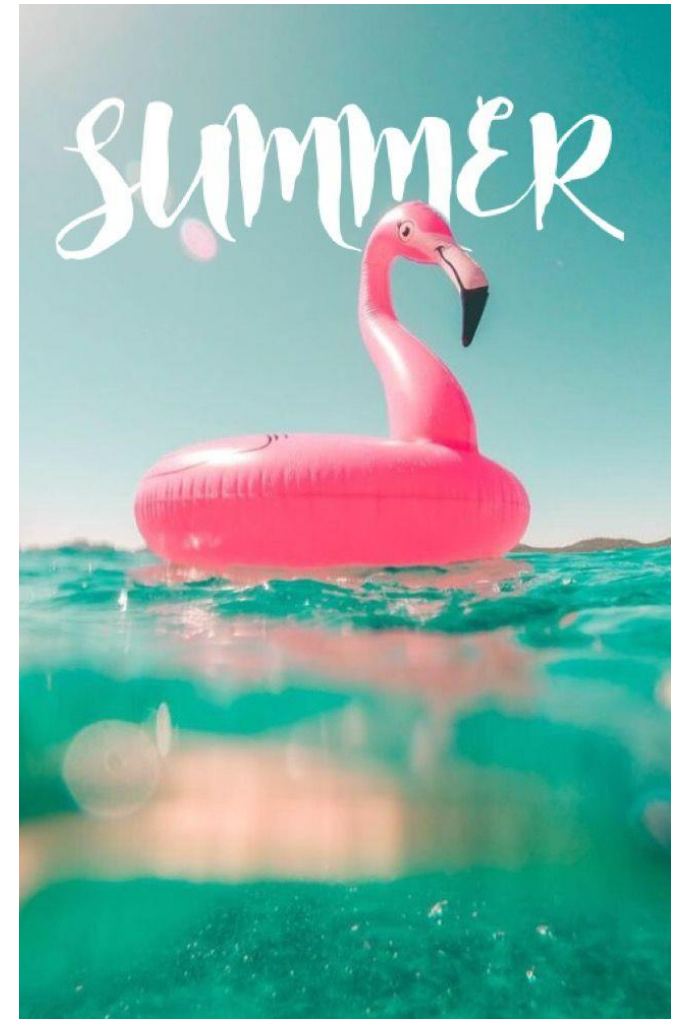
原民喜

広島で被爆した原民喜(1905-51)は、見たものすべてを書き尽くすことのみを心に決め、激することなく静かに物語った。だからこそ「夏の花」「廃墟から」「壊滅の序曲」などの作品が伝える原爆の凄惨さと作者の悲しみを、いっそう強く深い者にしていく。

死の床にあった姉ツルから聖書のお話を聞き、「生まれ変わったような衝撃」を受け、形見として聖書を譲り受けた。後輩作家、遠藤周作との交流もあった。

瀬戸カルバリーチャペル

×Seto LIFE ART Studio
愛知県瀬戸市みずの坂5-64 0561-48-8899
牧師：倉知契 kei.kurachi@gmail.com



祈りの小径(こみち)

Number:020

瀬戸カルバリーチャペル

「祈りの小径(こみち)」の名称は、愛知県瀬戸市・せともの街の名所「窯垣の小径」と、詩人・八木重吉の作品にある「祈りの路」から名付けられました。各ページにある数字の順に、賛美→聖書→黙想→解説→祈りを致しましょう。

2

今日の聖書のことば

ゆっくり読んで黙想しましょう。

ペテロの第一の手紙3章8～12節

3:8 最後に言う。あなたがたは皆、心をひとつにし、同情し合い、兄弟愛をもち、あわれみ深くあり、謙虚でありなさい。

3:9 悪をもって悪に報いず、悪口をもって悪口に報いず、かえって、祝福をもって報いなさい。あなたがたが召されたのは、祝福を受け継ぐためなのである。

3:10 「いのちを愛し、さいわいな日々を過ごそうと願う人は、舌を制して悪を言わず、くちびるを閉じて偽りを語らず、

3:11 悪を避けて善を行い、平和を求めて、これを追え。

3:12 主の目は義人たちに注がれ、主の耳は彼らの祈にかたむく。しかし主の御顔は、悪を行う者に対して向かう」。

詩篇34篇5～9節

34:5 主を仰ぎ見て、光を得よ、そうすれば、あなたがたは、恥じて顔を赤くすることはない。

34:6 この苦しむ者が呼ばわったとき、主は聞いて、すべての悩みから救い出された。34:7 主の使は主を恐れる者のまわりに陣をしいて彼らを助けられる。34:8 主の恵みふかきことを味わい知れ、主に寄り頼む人はさいわいである。

34:9 主の聖徒よ、主を恐れよ、主を恐れる者には乏しいことがないからである。34:10 若きしは乏しくなって飢えることがある。しかし主を求める者は良き物に欠けることはない。

3

黙想とところの投影の時間

(感じたこと・恵まれたことをノートします)

質問

Q1. 10節にあるように、「いのちを愛し、さいわいな日々を過ごそうと…」願っておられますか？

Q2. 幸いな日々とはどんな日々をイメージしますか？
(詩篇34の12には長生きも幸せのひとつと書かれています)

Q3. 9節にある、「悪をもって悪に報いず、悪口をもって悪口に報いず、かえって祝福をもって報いなさい」…とは実際何を「する」ことでしょうか。

Q4. 今年の標語(34篇8節)を通していただいた「神の恵み」の体験がありますか？どんな「味わい」でしたか？

4

みことばの解説

ペテロの第一の手紙3章1～7節には、妻と夫に対しての教えが書かれています。それぞれがどのような態度で生きるのかは、そのままお互いの霊的な生活に関係してくることが良く分かります。具体的な人間関係をバックグラウンドにして、8節以降のみことばがあることを心にとどめます。

(祈りの小径では、聖書箇所を絞って味わいますが、「文脈」を通して読み解く必要があります。聖書通読は大事にしましょう。)

使徒ペテロは、私たちクリスチャンが「祝福を受け継ぐ」こと、「幸いな日々を過ごす」ことを目標にしています。その道のりは、2章後半にあったように、イエス様の御足の跡を辿ることが基本です。

彼はこの3章で「祝福を受け継ぐ生き方」のために、ふたりのモデルをあげています。ひとりはもちろんイエス・キリストです。9節のことばは、ルカ福音書6章27～38節のイエス様の言葉が土台になっています。『敵を愛し、憎む者に親切にせよ、のろう者を祝福し、はずかしめる者のために祈れ(27・28節)』つまり、時間をとって、イエス様の「ことば・教え」に耳を傾け続けること、イエス様ご自身とその生き様を黙想することです。

もうひとりのモデルはダビデ王です。10～12節は詩篇34篇(2020年の標語!)からの引用です。ダビデはこの時、サウル王に追われて洞窟のなかの逃亡生活中でした。自由を奪われていました。しかし、詩篇34篇5節にあるように、「主を仰ぎ見て、(暗闇の洞窟で)光を得た」のです。ペテロは2章19節で、不当な苦しみのときに「神を仰いで耐え忍ぶこと」を語りましたが、そこにはダビデというモデルがいたのです。ダビデはけして油注がれた者(サウル王)に自ら手をかけるようなことはしませんでした。悪をもって悪に報いず、祝福をもって報いたのです。

ダビデは逃亡の末、敵国ペリシテに自分の身なりを隠し、奇人を装って潜伏します。しかし、彼は主に呼ばれること、主は恵み深いこと、主を求めることで、どのような劣悪な環境下にあっても、霊性を保ち、「良き物に欠けることはない」と言える人生を送ったのです。